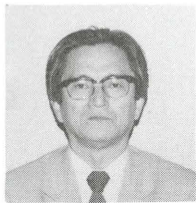


西南学院大学・ 図書館報

新入生特集号

新入生へ専門書のススメ……………	2～5
安河内英光・西村牧夫・藤野力・堤啓次郎 土方久・田中謙一郎・上垣彰・堀真清	
祝21周年 国連寄託図書館……………	中村恭一 6
祝20周年 EC資料センター……………	ミゲルG.オロス 6
図書館を正しく利用する方法……………	篠崎 珣 7
学術情報センターと接続……………	8

新入生を迎えて



専門家への一つの道

図書館長 長 洋 一

正倉院にある「鳥毛立女屏風」は樹下美人図ともいわれ、奈良時代の作品であるが、作者は不明である。美人図としては、唐のものに似ているので、唐で画かれたものと考えられたこともあったが、江戸時代以来の修理で、画の下張りに使われた天平勝宝四年六月五日の日付をもつ古文書が数多く発見され、これらによってこの美人画が日本で画かれたことが明らかにされてきた。

ある時、女子学生の一人が、このような美人図を画いた奈良時代の画師の研究を卒業論文にしたいと申し出てきた。彼女はそれから図書館にいき、この美人図についての研究論文を探し、それらをコピーした。そのうち、それらの論文は参考でしかないことが判ってきた。彼女は夏休みになると、奈良時代の古文書を集めた『大日本古文書』の編年の部の25巻を1巻ずつ読み始め、その中から画師関係の史料を抜き書きしていった。一方では、いくつもの美術全集を丹念に見ていった。そのような時の本はすべて図書館のものであったが、こうして彼女は原稿用紙120枚(48,000字)の卒業論文をまとめた。美人図の作者は不明のままだったが、その時代の画師のいろいろな姿が明らかにされた。彼女は一応の満足感をもったようだ。そしてこの論文の「あとがき」で、論文作成のための資料収集にあたって、大学図書館の方々にお世話になったことに謝意を述べていた。

卒業論文の「序」、あるいは「あとがき」で図書館の方々に謝意を述べることはよくあること

である。卒業論文作成にとりかかる以前には、あまり専門的ではなかった学生も、これを書き終えると、まがりなりにも論じ終えた満足感をもつようになる。そして、そのような自分を振り返ってみた時、ひたむきに資料を探しまわっていた自分を支えてくれた図書館の有難みを感じ、何度も書庫に足を運んでは何冊もの本を持って来てくれ、時には激励の言葉をかけてくれた館員の方々に感謝の念が湧いてきたのだろう。教師の助言もさることながら、図書館は、学生にとっては飛躍の土台となる場所であり、そこに専門家への一つの道があった。

教師にとっても図書館は有難いところである。私自身の歩みを振り返っても、空襲で焼失した戦前の福岡県立図書館にはじめていった時の感激以来、今日まで数多くの図書館にお世話になってきた。探している史料を見出した時の喜びは格別である。

現在、大学図書館は、他の図書館との横の連絡が緊密であり、学生諸君が探す本や雑誌・論文などがない時は、他の図書館に照会して、本とともに必要な論文のコピーも取り寄せてもらうことができる。閲覧のカウンターに気軽に申し出ていただきたい。また読みたい本で未購入のものは、書名を申し出てもらえば、ご要望に応ずることができるし、それだけ図書館も充実することになる。

図書館は、知的生産の場であり、また皆さんによって大きく育ててもらうところでもある。

(ちょう・よういち 文学部教授)

新 入 生 へ

専門書のおすすめ

「新たな認識の旅へ」

英文学科主任
教授 安河内 英 光

新入生への読書案内を書こうとすると、すでに四半世紀以上も前の大学入学時の自分の読書体験が脳裏をかすめます。

社会学の教授が勧めた本の一冊にエーリッヒ・フロムの『自由からの逃亡』があり、常識的な束縛された人間の存在状況からの“自由への逃亡”ではなく、抑圧や束縛のない“自由からの逃亡”を志向し権力の側につく人間の本性の鋭い分析に、人間性に関する全く新しい認識の目が開かれた思いがしました。さらに、書店で見つけたヴィクトル・フランクルの『夜と霧』には、アウシュヴィッツのユダヤ人強制収容所での著者自らの体験を通した人間観が描かれており、活字の向こうから死臭を嗅ぐ思いで読み進みながら、これは当時翻訳されたばかりのマルチン・ブーバーの『孤独と愛—我と汝の問題』の中に説かれている人間関係に於る他者(汝)の否定と物化の極限がいかにおぞましい結果をひき起こすかという事の例証だと考えさせられました。そしてこの本からまた、極限状況に置かれた人間にとって未来への視点と愛する者への思いがいかに不可欠であるかを学びました。

英米文学作品は、人一倍鋭い感性と思想を持った英米の作家たちによる言語芸術です。英語力をさらに身につけ、作家の深い人間と世界への洞察を読み取り、それが自らの新たな世界認識の広がりとし深まりとになるように努めて下さい。

(やすこうち・ひでみつ 英米文学)

「本は自分で見つけよう」

フランス語専攻課程主任
教授 西 村 牧 夫

私は、ここ十数年というものの、読書なるものをしたことがない。少なくとも、読書という高い響きにふさわしい行為(あるいは、本を恋人にすることと言ってもよいが)は、私にとって高嶺の花だ。私が本を開かぬというわけではない。むしろ、開きっぱなしだ。そして、それに目を通さぬというわけでもない。私は働いて生活費を得るが、私の仕事はフランス語を研究したり教えたりすることだ。その限りにおいて、私は開いた書物の文字を追いつける。しかし、それは読書ではなく労働だ。労働者が一般に働くことに喜びを感じるか否か、私は知らない。私に限って言えば、それは苦痛以外の何ものでもない。だが、私は私の収入を当てにしている者たちの期待に背くわけにはゆかぬ。したがって、私は餌を漁る獣の心をもって書に向かう。これは断じて読書ではない。

読書とは、いつでもできることのように見えながら、意外な喰わせものかも知れぬ。好機という女神の髪を掴んだら、手放してはならぬ。「で、お前は読書の楽しみを知っているのかね」もちろんだ。「そいつを拝聴したいものだ」しかし、それが君にとってどうだと言うのかね? 「ちっとは参考にもしようじゃないか」およしなさい。君は私ではないのだ。私は、万人のための読書なるものを信じない。読書は1人びとりのものだ、あたかも恋人のように。昔の恋人の秘密を君に洩らすわけにはいかぬ。

(にしむら・まきお フランス語音声学)

新 入 生 へ

専門書のススメ

「知性の探険隊員になろう」

児童教育学科主任

教授 藤 野

力

児童教育学科の新入生の皆さんは、カリキュラムを変更したり、新しくコース制を始めたりしましたので、新設の基礎演習が開講されています。各コースに分かれて受講している基礎演習で、これからの4年間の教育・研究の指針を示してもらっていると思います。また、授業のなかで参考文献として専門書の紹介と読書指導もされていると思います。その内容と重複することが多いかも知れませんが、専門書のすすめという意味で述べてみたいと思います。

大学の教育・研究においては、色々な情報の獲得方法がある現在でも、文献によって情報を得ることがその主要な方法になっています。得られた結果を公開的に行う場合には、他者との情報の交換が必要です。この交換にあたって、結果を相互に伝えることを行うには文献にする方法が今でも有効です。

実際に、自己の研究テーマを持って、研究を行う上に、過去の情報を得ることは大切な作業です。具体的には、その分野の専門書・論文を読むことになります。専門書の読み方については、授業によってなされていくわけですが、学生自らも積極的に図書館に足を向けて、最初は図書館にある文献を自分の能力で読んでみることをしてみてください。

専門書は勿論ですが、図書館には読書の愉楽を与えてくれる文献が沢山あるので、卒業までに、それを捜しに行くのはどうでしょう。

(ふじの・つとむ 数学)

「学問論」を考えよう

国際文化学科主任

教授 堤

啓次郎

大学は、学問をするところです。大学生は、そのことを通して自己の信念や思想を形成し、自立性や主体性をつちかうことになります。その学問することの圧倒的部分を占めるのは、本を読むことです。読書なくしては人類の英知を摂取することも、自己の思考をすすめることもできません。その意味で、読書は、大学生生活のもっとも基底的要素をなしています。

専門書の何を、どう読むかについては、専攻によって異なります。国際文化学科は、全教師の執筆による『読書案内』を作用しているので、それを活用してください。

これから本格的な勉強を始める諸君に、要望がひとつあります。それは、「何を、どう学ぶか」という問いとともに、「なぜ学ぶのか、どのような意味があるのか」、「これでいいのか」という問いを常に考え続けてほしい、ということです。この「学問論」は、そもそも学問するに際しての不可欠の作業であり、入門書に対しては、例えば高島善哉著『社会科学入門』(岩波新書)などのように、学問の構造や特徴、学ぶ方法や姿勢を考える形で行われてきました。しかし昨年から今年にかけての世界の激動状況は、従来にも増して学問の意味やあり方、有効性が問われていることを意味しているでしょう。学問は、現実との緊張関係のなかでその真の意義を問われ、また鍛えられていきます。と同時にこの問いは、大学生生活をおくる諸君自身の不断の自己確認の作業でもあるでしょう。

(つつみ・けいじろう 日本近代史)

新 入 生 へ

専門書のススメ

「読まず嫌い」

商学科主任

教授 土 方 久

「食わず嫌い」という言葉がある。読書にしても、そうではなからうか。否、それ以前の状態かもしれない。入学シーズン、「先生は皆が本を読めと言われるのですが、何を読んだらいいのですか」と、新入生のA君。就職シーズン、「履歴書の趣味欄は読書にしたいのですが、ジャンルは何にしましょうか」、「先生の愛読書で間に合わせたいので、粗筋を話してください」と、ゼミ生のB君、C君。このような話をよく聞く。食べれる品数が多くなり、すべてを食べ尽くせないのと同様に、出版される本がこれだけ多いと、どれから読んでいいのか戸惑いを覚えるからであろう。そこで、「まずは自分で捜しなさい」と言いたい。自分に興味を持てそうな本、手軽な本、自分に納得さえあれば、何でもいいのである。それも、「自分で金を出して買いなさい」と言いたい。無駄にしたい気持ち、これを独占したい気持ちが働くからである。専門書にこだわる必要はない。そのうち、専門書も読みたくなるはずである。読まざるをえなくなるはずである。とにかく、「読まず嫌い」を克服しておかねばならない。グルメであろうとしたら、食わず嫌いであってならないことを思うと、容易に分かるであろう。ちなみに、去年の生協調査による西南大生の1日の読書時間は、「ほとんどなし」20.0%、「30分未満」31.4%、「～60分」34.3%、「～90分」4.3%、「～120分」5.0%、「～150分」2.1%、「150分以上」2.9%である。新入生の諸君は、平均以下、並かな。平均以上であってほしい。もちろん、古人の言葉にもあるように、「書物ヲ読ミテ書ノ心ヲ知ラザ

レバ、学問トハイハズ」(石田梅岩)。このような読書を心がけてこそ、大学生活はパフォーマンスできる。本との出会い、本との対話、本との付き合いを期待したい。

(ひじかた・ひさし 会計学原理)

「非専門書のススメ」

経営学科主任

助教授 田 中 謙一郎

このシリーズの趣旨は、新入生へ専門書を読む習慣を勧めることだそうである。しかし、どうやら私にはその資格はなさそうである。私が大学に在籍していた70年代の初めは、まだ学生運動が盛んで、講義が度々中断されていた時代である。やっと受験勉強から解放されて、これから自分の興味に従った勉強ができると思っていたのに、私の期待していたような講義には減多にお目にかからなかった。その原因のひとつは、大学の教授というのは、学生に教えるという事が恐ろしく下手で、その上不熱心だからである。(それは、只今、私自身の自戒のことばともなっている。)

そこで、新入生の皆さんへ提案がある。先生をあてにせず、自分で問題を発見し、その問題を解決するために、自分なりに色々な書物を読み、自分で解決の方法を模索してみることである。そうすれば、体系化されてはいるが平板な知識に過ぎなかったものが、人間臭いふくらみをもって、違った姿を見せてくれるに違いない。時間を上手に使って過ぎないことである。最初は戸惑うかもしれないけれど、解決を急いで手軽な答に飛びつくと、結局はつまらない4年間を過ごすことになる。あまり、自分の専門にこだわらず、時間をぜいたくに使って、日経文庫や中公新書等を乱読することを考えなさい。

(たなか・けんいちろう 管理工学)

新 入 生 へ

専門書のススメ

「読書のすすめ」

経済学科主任

助教授 上 垣 彰

新学年が近づくと私はアダム・スミスの『諸国民の富』の一節を読んでほくそ笑む。たとえば次のような箇所。「もしかれが服している権威が、かれ自身もその一成員である団体、つまり学寮または大学に属し、しかもそこでは他の成員の大部分もまたかれと同じように教師であるか、またはそうであるべき人々であるかするならば、かれはおそらく協力して、みなたがいにきわめて寛大にしようとし、あらゆる人は、自分が自分の義務を怠るのをゆるしてもらえなかり、自分の隣人がその義務を怠ってもそれに同意している。」スコットランドの大学を卒業し、奨学金を得て、権威ある大学オックスフォード大学に入学したアダム・スミスは、そこでの研究・教育水準の低さに驚きあきれて上記の文章を書いた。

あらゆる権威に屈することなく自分の頭で考え抜くことの痛快さを私はアダム・スミスから感じとる。読書を権威を身に付けるための手段と誤解し、「自分はそんなことしたくないんだ」とうそぶいている君、君はまちがっています。読書は権威の殻をうちやぶる強力な武器なのですから。

(うえがき・あきら 計画経済論)



「読書精神の母」

法律学科主任

教授 堀 真 清

法学部の学生に限らず、読書の一般的指針としては、学生時代でなくてはなかなか読む暇とエネルギーのない大部の「名著」を精読することを勧めます。社会科学の主食中の主食は何か、議論の別れるところでしょうが、マックス・ウェーバーの『社会科学と価値判断』や『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』をしっかり咀嚼していくところがけがあれば申し分ないと思います。

ドストエフスキーや漱石などを落ち着いて読むことができれば、これもまた、素晴らしいことでしょう。そのさい、こうした作家がいかなる社会環境に生まれ育ち、その社会の問題にどのように取り組んだか。こうした問いかけをしながら読むよう期待します。

法律や政治の勉強にさいして特別の方法、読書法があるかどうか知りません。そうした秘義があれば私も修得したいのですが、おそらく無いでしょう。ここでは真面目に読書の道案内を求める皆さんに安易なことを言うのは止め、一つだけつけ足しておきます。それはトマス・ヒル・グリーンの言葉です。「自由ならんとし、事物を理解せんとし、人生の味を楽しむこと、これが近代精神の父である」私はグリーン最後の句を「これが読書精神の母である」と置き換えただけで、私の考える読書の意義を十分に伝え得たのではないかと思います。

(ほり・まきよ 政治史)



UN

祝 21周年 国連寄託図書館

—祝 20周年 EC資料センター



EC

国連と地域を結ぶ 大切な「パイプ」

国連広報センター

所長代行 中村 恭一氏

国連寄託図書館開設21周年おめでとうございます。

国際連合は、国際の平和を守り、経済社会開発を進め、人権を推進するために、いまから45年前に創設されました。以来、国際紛争の解決、植民地の解放、人口、食糧、女性、青年、高齢者、難民、環境、開発をはじめ、いわゆる「地球的規模の問題」に取り組み、多大な成果をあげてきました。最近では今世紀最後の植民地の独立といわれるナミビアの独立も、国連のこのような努力の結果の一つです。

貴国連寄託図書館は、こうした国連の活動について人々のご理解を得、より積極的なご協力ならびに御支持を頂くうえで大変に重要な役割を担っておられます。総会、安全保障理事会、経済社会理事会をはじめ国連の様々な機関や委員会の最新の議事録、出版物を所蔵し、学内はもとより、九州全域の自治体、研究者、N G O、学生、一般市民に公開されています。

また貴寄託図書館は全国の有数の大学に設置された国連寄託図書館としては、私立大学に設けられているというユニークな性格を持っています。この点では貴学のほかに一例を見るだけです。

ここ数年、日本では「国際化」の下に「地球的規模の問題」への関心が一段と高まり、国連寄託図書館への期待もますます大きくなっています。国連寄託図書館は国連と地域とを結び、かけがえのない「パイプ」と言えましょう。

より一層のご発展をお祈り致します。

(なかむら・きょういち氏)

Congratulations, 20th Anniversary of EDC.

At a time when practically all Japanese institutions and companies are busy studying the European Community, no doubt because of the enormous opportunities offered by the wide opening of the European market we will achieve by the end of 1992, we should all pay a tribute to the precursors, to the pioneers in the dissemination of European studies in Japan.

Twenty years ago, SEINAN GAKUIN UNIVERSITY was the first one in Japan to establish an European Documentation Centre, a place where all the basic EC documents could be found and consulted by the, at that time few scholars and students that intuitively thought that the Community was to grow in importance and strength. At that time there were only six members of the Community, and its powers were much more limited than today, when it is twice as big.

With our congratulations to SEINAN GAKUIN UNIVERSITY, we send also a message of encouragement to continue the important job they are performing to serve the students, scholars and business community of Fukuoka. The European Community appreciates the importance and usefulness of the European Documentation Centre and maintains its commitment, based on performance, to each and one of the eighteen EDC's now existing in Japan.

(駐日EC委員会代表部広報部
情報サービス室長ミゲルG.オロスコ氏)

図書館を正しく利用する方法

——意外と知らない規則あれこれ——

情報サービス課長 篠崎 珣

本学図書館の図書蔵書数は53万冊。そのうち開架閲覧室に配架している図書は14万冊。また和書は33万冊、洋書は20万冊。雑誌が5,500タイトル。これらの図書・雑誌は一部を除いてほとんど利用することができます。高校までの図書室とは質量ともに格段の違いがある大学図書館。新入生の皆さんが、図書館をよりよく利用できるように簡単なお紹介をいたします。詳しくは別冊ガイドブックを参照してください。

全館を利用できる

各階は概ね学部学科の学問分野ごとに図書を置いています。しかし、専門教育にも専攻科目と関連科目とがあり、また一般教育科目もありますから、ほとんどすべての閲覧室を利用する必要があります。たとえば、経済学部の学生は専攻科目を3階で勉強し、関連科目の民法や労働法、政治学などを4階で、一般教育科目のキリスト教学は2階でというように。

午後9時まで利用できる

授業や課外活動で、昼間落ちついて勉強できなかった人は、早目の夕食をとって6時頃来館してください。9時までみっちり勉強できます。

携帯品はロッカーに

1階（学習室、新聞閲覧コーナー、国連寄託図書館）を利用するときは、携帯品は全て持ち込むことができますが、2階以上に入るときはコートや鞆（テキスト、辞書、筆記具を除く）は1階のコインロッカー（100円）に入れてください。退館時にコインは戻ります。コインを持ち合わせてないときは、2階のロッカーに。

ロッカーは当日限り

図書館ロッカーは図書館を利用するときだけ

使えるロッカーです。駅などのロッカーと混同しないでください。キーを持ったまま帰宅した場合は始末書を書いていただきます。

図書を借りるには利用カード

図書を借りるためには、図書利用カードが必要です。これには、利用者個人の情報がバーコードで記憶されていて、図書に貼っているバーコードとこのカードのバーコードを読み取ることによって、個人の貸し出し、返却の状況がコンピュータに記録されます。利用カードは在学期間中有効で、入学後図書館で配布します。

貸出し、返却手続き時間を守って

貸出し、返却情報を閲覧カウンターのコンピュータ端末機で入力したものを、コンピュータにバックアップする時間が必要なため、とくに端末機による貸出し手続きは19:50に終了します。これ以後はカウンター係員の指示に従ってください。また、返却手続きは21時までですがこれも係員の指示によってください。

辞書類、雑誌は帯出できない

帯出できるものは禁帯出以外の図書（開架及び閉架の図書）のみ。辞書、辞典などの参考図書と雑誌は貸し出ししません。必要なときはコピーを。

閉架書庫を利用するには

開架閲覧室の図書・雑誌は、自由に利用することができますが、閉架書庫の図書・雑誌を利用するときは、閲覧カウンターに申し込んでください。

コピーは図書館蔵書のみ

図書館にはコイン式複写機を設置して、利用

者へのコピーサービスを行なっています。通常は1台の複写機を、定期試験期には2台を設置します。紙のサイズに関わりなく1枚20円で、図書館蔵書以外のコピーはできません。

荷物での座席とり禁止

閲覧室や学習室で最も気に入った座席を確保することは、勉強の能率を上げるためには好ましいことです。図書館で勉強し、途中授業に出席して再び図書館で勉強するために、授業に出ている間、荷物で座席を確保する人が少なくありません。図書館での勉強意欲をそぐようで申しわけありませんが、荷物での座席とりは、とくに利用者が多いときは厳禁します。一旦図書館から出るときも、必ず退館手続きをとり、荷物を全部持ち出してください。

図書返却延滞は罰金

通常、学部学生は図書3冊15日間の借り出し

ができます。返却期限を過ぎると、1冊1日につき10円の延滞料を徴収します。また、督促にかかる費用も利用者の負担です。返却延滞は、ほとんど不注意によるもの。借り放しでは他の利用者が迷惑します。

読みたい本がないときは

図書・雑誌は利用者の希望も十分取り入れて購入するようにしています。図書館に読みたい本がないときや、蔵書としてふさわしい本があれば、意見を聞かせてください。図書館からの回答は、玄関掲示板にてお知らせします。

他大学の図書館を利用するには

相互利用によって、大学生は他大学の図書館を利用することができます。1日限りの場合も1か月など長期の場合も、原則として本学図書館長が発行する利用願いが必要です。

平成2年度 前期行事予定

- 4月中旬 図書利用カード配布
(新入生、在校生とも)
- 5月11日(金) 学院創立記念日のため休館
- 6月27日(水) 夏季休暇長期貸出し開始
(返却期限は9月19日)
- 7月11日(水) } 夏季休暇(休暇中は学習室閉室)
- 9月4日(火) }
- 8月13日(月) } 休館
- 15日(水) }

お知らせ

《学術情報センターと接続》

去る平成2年2月28日、念願であった学術情報センターと本学図書館のコンピュータ接続が実現しました。同センターは、前東京大学学術情報センターが改組されたもので、全国大学図書館が収蔵する1億3,000万冊の図書、184万種の

学術雑誌の情報を体系的に収集し、提供すること、あるいは学術データベース化を促進することなどを目的としています。

同センターとは、すでに多くの大学図書館が接続を完了しています。本学もこの接続によって、文献所在情報の形成・利用や、文献資料の収集・提供など、より充実してゆくことが期待されています。

《人事異動》

平成2年4月1日付

司書補 田渕智子(整理課) 庶務課に

書記補 棚町孝子(学生課) 整理課に

編集後記

「人間は名誉を得る前に試練を受けなければならない」(ソロモン) これからの4年間の大学生活は決して遊びであってはならない。書を読み、努力した人へのみ、社会での栄光があるだろう。(J)